

友だち 100冊 できるかな?

図書館司書が選んだ 子どもに読んでほしい本 100選 (小学生向け)

子どもの読書は…

子どもはおもしろい本に出会うと、その本の世界に入り込み、主人公とともに冒険をします。主人公が危険な目にあうとドキドキし、ゆかいなできごとには大笑いし、幸せな結末に心から満足します。

子どもたちは、読書によって様々な出会いを経験することになります。

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにします。読書が習慣化すると、学ぶ力が育つことはもとより、人生をより深く、心豊かに生きる力が身に付きます。

ここに紹介する100冊の本は、千葉県内の図書館司書が、子どもたちやご家族の方にぜひおすすめしたい本として選んだものです。家庭で過ごすひととき、お子さんと一緒に本を読んでもみませんか？

お子さんとの絆を深める大切な時間となり、保護者の皆様も読書の楽しさを改めて発見できるのではないのでしょうか。



千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」

千葉県教育委員会

『ライオンと魔女 (ナルニア国ものがたり1)』
 戦争をさけるために田舎へ預けられた4人の兄妹は、古いタンスのむこうの不思議な国ナルニアに入り込んでしまう。恐ろしい白い魔女に支配された国を取り戻すため、真の主アスランとともに戦う4人の冒険物語。
 C.S.ルイス 作 瀬田貞二 訳 岩波書店★

『冒険者たち ガンバと15ひきの仲間』
 ドブネズミのガンバは島ネズミを苦しめるイタチのノロイ一族と戦うため、15匹の仲間と夢見が島に向かう。仲間同士助け合い、知恵と勇気をふりしぼって困難を一つ一つのりこえていく。
 斎藤孝夫 作 岩波書店★

『モモ』
 ある日モモの住む町に灰色の男たちがやってきて、人々の時間を盗むようになる。心を奪われた人々は、家族や友達との時間そっちのけで、休みなく働くようになってしまった。モモは盗まれた時間を取り戻そうと灰色の男たちに立ち向かう。
 ミヒャエル・エンデ 作 大島かおり 訳 岩波書店

『チョコレート工場の秘密』
 とても貧乏な家の男の子チャーリーは、幸運にも板チョコに入ったくじを引く。心奪われた人々は、家族や友達との時間そっちのけで、休みなく働くようになってしまった。モモは盗まれた時間を取り戻そうと灰色の男たちに立ち向かう。
 ロアルド・ダール 作 柳瀬尚紀 訳 評論社

『クローディアの秘密』
 毎日が退屈で、長女は損ばかり。嫌気がさした11歳のクローディアは、弟を誘って家を出し、メトロポリタン美術館の中にかくれ住んだ。今と違った新しい自分になりたいたいという願いを胸に、あるぞ解きに夢中になる。
 E.L.カニグズバーグ 作 松永ふみ子 訳 岩波書店

『わらしべ長者 日本民話選』
 ひんぼうな若者が手に入れた一本のわらが、いろいろなものと交換されていくうち、ついには大金持ちになるお話「わらしべ長者」をはじめ、劇作家である著者が、民話の語り口調を生かして再話した民話集。「かにむかし」など22話を収録。
 木下順二 作 岩波書店

『二分間の冒険』
 小学5年生の悟は、運動場のすみで黒猫のダレカに会い、異世界に連れて行かれる。そこは子どもだけが住み、電に謎かけと剣で戦わなければならない世界だった。元の世界に戻るため、悟はこの世界で一番たしかなものを探す。
 岡田淳 著 信成社

『トムは真夜中の庭で』
 夏休みの間、おばさんの家に預けられたトムは、真夜中に古時計が13回鳴るのを聞いた。すると、家の裏口に庭園にはなかった庭園があらわれ、トムは昔風の服を着たハティという少女に出会う。トムとハティは友だちになって…。
 フリッパ・ビアス 作 高杉一郎 訳 岩波書店

『だれも知らない小さな国 (コロボックル物語1)』
 小学3年生の頃、秘密の遊び場で見かけた小指くらいの小さな人。時間が過ぎ、またそこを訪れたことで、僕は彼らと再会する。もしかしたらコロボックルがそばにいるかもしれない。そんな気がするようなファンタジー。
 佐藤さとる 作 講談社★

『ルドルフとイッパイアッテナ』
 ひょんなことから見知らぬまちに来てしまった猫のルドルフ。出会ったポス猫のイッパイアッテナは少し怖いけれど頼れる存在で、特技は人筒の文字を読むことだった。ルドルフはのら猫生活の知恵を学びながら、文字も学ぶことに。
 斎藤洋 作 講談社★

『ふたりのロッセ』
 夏休みの林間学校で出会ったロッセとルーゼ。ふたりは髪型以外そっくりだった。自分たちがふたこの姉妹であることを知ったふたりは、別れた両頬を仲直りさせようと考え、入れかわりを計画する。
 ケストナー 作 高橋健二 訳 岩波書店

『アラスカたんけん記』
 学生時代にアラスカに魅了された著者は、カメラマンとなり再びアラスカへ。カヌーで氷河の崩壊に遭遇したり、カリブーの群れを追いかけ雪道をひたすら歩いたり、大自然の中で奮闘した体験を臨場感あふれる写真とともに記す。
 星野道夫 文・写真 福音館書店

『魔法使いのチョコレート・ケーキ』
 魔法はへただがおいしいチョコレート・ケーキを作る魔法使いが、子どもたちを招待してパーティーを開こうとしても、だれ一人やって来ない。そこでりんごの木を相手にお茶会を開くと…。他7編の物語と詩2編を収録した短編集。
 マーガレット・マーヒー 作 石井桃子 訳 福音館書店

『魔法の宅急便』
 魔法のキキは、13歳になる年に親元を離れ、知らない町で独り暮らしを始める。ぼうきで空を飛んで届け物をする宅急便屋となり、変わった依頼を受けながら町になじんでいく。キキと黒猫のジジの1年間を描いた物語。
 角野栄子 作 福音館書店★

『二年間の休暇』
 夏の休暇にヨットで船旅を楽しむはずだった寄宿学校の少年たちは、大人を乗せずに船出してしまい、無人島に流される。船はこわれ、助けはのぞめない。少年たちは無人島で自分たちなりに生活しようと力を合わせ、困難に立ち向かう。
 J・ベルス 作 朝倉剛 訳 福音館書店

『精霊の守り人』
 上橋菜穂子 作 偕成社★
 名用心棒として知られた女剣士(短槍使い)のバルサ。偶然から新ゴゴ王国第二皇子の身を預かるが、皇子は(精霊の守り人)のさだめを負っていた。8人の命を救うという誓いをたてたバルサの運命を描く壮大なファンタジー。

『あのころはフリードリヒがいた』
 ハンス・ベーター・リヒター 作 上田真而子 訳 岩波書店
 「ぼく」と1週間違いで生まれた「フリードリヒ」は幼なじみだった。ただ一つ、ぼくはドイツ人でフリードリヒはユダヤ人だったことが、悲劇の始まりだった。戦争を知るためにぜひ読んでおきたい作品。

『影との戦い(ゲド戦記1)』
 ルーグウィン 作 清水真砂子 訳 岩波書店★
 魔法を学ぶ学院で修行中のゲドは、ライバルに自分の力を見せつけたいと望む。魔法の力の試し合いで「呼び出しの呪文」を使い、死者の霊を呼び出し、影を放ってしまう。ゲドはその影に追われ、戦うことになる。

『空色勾玉』
 エリザベス・コーディー・キメル 著 千葉茂樹 訳 あすなろ書房
 『クラバート』 オトフリート・フロイスラー 作 中村浩三 訳 偕成社
 『アンネの日記』 アンネ・フランク 著 深町真理子 訳 文藝春秋

『夜のパクニック』
 恩田暁子 作 徳間書店★
 『指輪物語』 J.R.R.トールキン 著 瀬田貞二・田中明子 訳 評論社★
 『素数ゼミの謎』 吉村仁 著 文藝春秋

『夏の庭 The Friends』
 瀬本香樹実 作 徳間書店(新潮社もあり)
『西の魔女が死んだ』
 梨木香歩 著 新潮社
『星の王子さま』
 サン＝テグジュペール 作 内藤濯 訳 岩波書店

『エンデュアランス号大漂流』
 エリザベス・コーディー・キメル 著 千葉茂樹 訳 あすなろ書房
『クラバート』
 オトフリート・フロイスラー 作 中村浩三 訳 偕成社
『アンネの日記』
 アンネ・フランク 著 深町真理子 訳 文藝春秋

『空色勾玉』
 エリザベス・コーディー・キメル 著 千葉茂樹 訳 あすなろ書房
『指輪物語』
 J.R.R.トールキン 著 瀬田貞二・田中明子 訳 評論社★
『素数ゼミの謎』
 吉村仁 著 文藝春秋

『夜のパクニック』
 恩田暁子 作 徳間書店★
『科学と科学者のはなし 寺田寅彦エッセイ集』
 池内了 編 岩波書店

◆ふれあい読書「家読(うちどく)」のススメ
 家庭でのふれあい読書を意味する「家読(うちどく)」は、読書を通して、家族の絆やコミュニケーションを深めることを目的とし、方法は自由で、各家庭で本の楽しみ方があります。
 ○家族で同じ本を読み、感想を話す ○家族で絵本を読みながら楽しい時間を過ごす
 ○大人が子どもに本を読み聞かせる ○家族で読書の日や読書タイムを設ける
 ○子どもが大人や家族に本を読む ○大人が子どもに読書の思い出を語る など

●対象年齢は目安です。シリーズや続編もおすすめしたい作品には、出版社名に★印がついています。
 ●ここで紹介する本は、千葉県内の図書館司書が所属する、千葉県公共図書館協会が選んだものです。
 ●このリーフレットは千葉県教育委員会のホームページからダウンロードできます。非営利目的に限り、複製・配布ができます。
 発行 / 千葉県教育庁教育振興部生涯学習課
 〒260-8662 千葉市中央区市場町1番1号 TEL:043-223-4072 FAX:043-222-3565
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/dokusho/index.html>



千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」

小学校

1・2年



『王さまと九人のきょうだい』

悪い王さまの出ず難題を、九人の兄弟がそれぞれの長所をいかして乗り切り、王さまをこらしめる物語。9回の繰り返しで子どもに喜ばれる中国の民話絵本。



赤羽末吉 絵 君島久子 訳 岩波書店

『みどりいろのたね』

えんどう豆のたねといっしょに、みどり色のあめ玉も埋めてしまったまあちゃん。土の中でたねたちとあめ玉がけんかをはじめる。たねたち V.S. メロンあめ!土の中の攻防戦には、思わず笑ってしまう。



たかどのほうこ 作 太田大八 絵 福音館書店

『きえた犬のえ (ぼくはめいたんてい)』

探偵のネートは、友達のアニーから自分がかいた「犬の絵」をさがしてほしいと頼まれる。きえた犬の絵をみつけるため、小さなヒントから事件を解決していくネート、謎解きの面白さも楽しめる作品。



マージョリー・W・シャーマット ぶん マーク・シマトス エ 光吉夏弥 やく 大日本図書★

『おおきくなりすぎたくま』

ジョニーは森でこくまを見つけて家に連れて帰るが、こくまは大きくなり畑や納屋を荒らすようになった。そこでジョニーはこくまを森に帰そうとする。ジョニーとこくまの交流を描いた心温まる絵本。



リンド・ワード 文・画 渡辺茂男 訳 ほるぷ出版

小学校

3・4年



『ものぐさトミー』

トミー・ナマケンボの家は電気しかけただ立っているだけで、機械がなんでもやってくれる。ある日嵐がやってきて電気が止まったら大変!抱腹絶倒のお話。



ペーン・デュボア 文・絵 松岡享子 訳 岩波書店

『がんばれヘンリーくん』

ヘンリーくんは小学3年生の男の子。ある日、ひろったがりがりのやせ犬アバラといっしょに、次々にゆかいな事件をまきおこす。子どもたちの日常を生き生きと描いた楽しいお話。



ペリレイ・クリアリー 作 松岡享子 訳 学研★

『ポリーとはらぺこオオカミ』

おなかをすかせたオオカミがポリーを食べてやろうと、「赤ずきん」や「三びきの子ぶた」などをまねて奮闘するが、ポリーの方が「二救うわてでいつもやりこめられる。まぬけなオオカミと賢いポリーのゆかいなお話。



キャサリン・ストー 作 掛川藤子 訳 岩波書店★

『ゆかいなホーマーくん』

アメリカの小さな町に住むホーマーくん。ペットのスカンクと一緒に強盗を捕まえたり、機械が故障してたくさんのドーナツができてしまったり、思いがけない事件が次々と起こり、ワクワクドキドキ満載の6編を収録。



ロバート・マックロスキー 文・絵 石井桃子 訳 岩波書店

『こいぬがうまれるよ』

「いこおしえてあげようか?」こいぬをもらうことになった「わたし」のわくわくした思いに引き込まれてお話が始まる。こいぬが誕生する時の臨場感や、母さん犬との深い絆、日々の成長を小さな女の子の言葉で綴った写真絵本。



ジョアンナ・コール文 ジェローム・ウェクスラー 写真 つばいこみ 訳 福音館書店

『あおい目のこねこ』

元気なこねこがねずみの国を見つけに旅をする途中、黒や黄色い目のこねこたちに出会い、青い目をばかにされたり、意地悪をされたりするが、「なんでもないさ」とつき進み、ついにねずみの国を見つける。こねこと一緒に冒険する気分を味わえる物語。



エゴン・マナーゼン 文・絵 せたていじ やく 福音館書店

『おいしいのぼうけん』

ミニカーのとりにっこでけんかして、保育園の押入れに入れられたさとしとあき。さとしは押入れに怖いぬずみばあさんが現れ、2人は手をつないで夜の町を逃げ回る。次々とかわる場面と2人の大冒険が読み応えたっぷりの絵本。



ふるたたるひ、たばたせいいち 文・絵 童心社

『ひとまねござるときいろいぼうし』

ひとまねが大きなおさるのジョージは、黄色い帽子のおじさんに連れられ、アフリカから船で町にやって来た。ところが、持ち前の好奇心から次々と騒ぎを引き起こす。いつも明るく元気いっぱいジョージの姿が子どもたちの共感を呼ぶ。



H.A.レイ 文・絵 光吉夏弥 訳 岩波書店★

『大どろぼうホットェンプロッツ』

おばあさんの大事なコーヒーひきを盗んだ大泥棒を、孫のカスパールと友人のゼッペルが追跡。魔法使いや妖精も登場し、少年たちが知恵を絞って大泥棒と渡り合う。テンポが速く、ユーモアたっぷりの冒険物語。



オトフリート=プロイスラー 作 中村浩三 訳 偕成社★

『スーホの白い馬』

モンゴルの楽器「馬頭琴」の由来を伝える民話絵本。貧しい羊飼いの少年スーホの白馬が競馬で優勝するが、白馬は敵様にとりあげられてしまう。白馬はスーホのもとへ命を救うため逃げ帰るが…。モンゴルの風景が横長の画面をいかに描かれている。



大塚勇三 再話 赤羽末吉 画 福音館書店

『百まいのドレス』

ワンダは貧しく、いつも同じ服を着ている女の子。ドレスを百枚持っていると言ったためからかわれる。ワンダが遠くに引っ越して行った後、教室には百枚のドレスの美しい絵が飾られていた。マドレーンはからかったことを後悔して…。



エレナー・エステイス 作 石井桃子 訳 岩波書店

小学校

5・6年



『たんぼぼ』

かわいらしく、きれいなだけではないたんぼぼの生態がよくわかる。根はどうなっているのだろう。花にはどんな秘密があるのだろう。ふだん何気なく見ているたんぼぼの知恵やたくましさを感じ、新たな発見がある。あなたは「たんぼぼを飼っていますか?」



平山和子 ぶん・え 福音館書店

『ピーナッツなんきんまめらっかせい』

まめがなぜ地中に?地中に実をつける落花生の不思議や疑問が解けて楽しい科学絵本。実物のように描かれた絵が落花生の成長を明らかにしてくれる。落花生の成長が繰り返し楽しめるし、好奇心をくすぐる表現が魅力的。



こうやすずむ 文 中島睦子 絵 福音館書店

『すずめのくつした』

靴下工場の息子のアンガスとすずめのブルースは冬の仲良し。ある寒い冬の日、震えるブルースのために、アンガスは父さんの工場ですずめの足に合わせたちっちゃな靴下を編む。靴下は大評判になり、アンガスはブルースの友達にも次々と靴下を編んでゆく。



ジョー・セルデン ぶん 光吉郁子 やく 大日本図書

『番ねずみのヤカちゃん』

ドドさん夫婦の家で4匹の子ねずみを育てるお母さん。人に気づかれずに静かに暮らすための知恵を歌にして教えるが、末の子ねずみヤカちゃんは、とにかく声が大きくて、ハラハラさせられっぱなし。思わず声に出して読みたくなる1冊。



リチャード・ウィルバー 文・絵 松岡享子 やく 大社培子 福音館書店

『小さなスプーンおばさん』

ある朝、おばさんが目を覚ますと、ティースプーンくらいに小さくなってしまった。スプーンおばさんは頭を働かせ、時には小さな体を利用してユーモラスに困難を乗り越えていく。



アルフ・ブレイヒン 著 大塚勇三 訳 学研★

『長くつ下のピッピ』

ピッピは世界一力持ちな女の子。次から次に奇想天外なことを思いつき、すぐに行動してはひと騒動起こすが、その無邪気さや心の温かさが周りの人々に受け入れられる。ピッピの活躍を描いた三部作の一作目。



リンドグリーン 作 大塚勇三 訳 岩波書店★

『時計つくりのジョニー』

ジョニーは手先が器用で、ものをつくるのがじょうずな小さな男の子。ある日「大時計をつくらう」と思った。親や教師にバカにされ、同級生に邪魔されても、ジョニーは懸命に時計づくりに取り組む。



エドワード・アーディソニー 作 あべきみこ 訳 偕成社

『絵で読む広島原爆』

人類最初の原子爆弾が投下された広島原爆の町を、生き残った人々の証言をもとに描いた絵本。原爆がなぜ作られ、なぜ広島に投下されたのかが、わかりやすく解説されている。被爆後50年間の核に関するできごとまとめられている。



那須正幹 文 西村繁男 絵 福音館書店

『はじめてのキャンプ』

小さい女の子なほちゃん、大きい子たちと一緒に初めてのキャンプに連れて行ってもらった。「重い荷物を持つ」「絶対泣かない」などの約束を守ろうと、背伸びをして精一杯頑張るなほちゃん。キャンプの楽しさも教えてくれる本。



林明子 文・絵 福音館書店

『なぞなぞのすきな女の子』

なぞなぞの大好きな女の子が、ある日なぞなぞ遊びの相手を探して森へ出かけると、ぼったりお腹をすかせたオオカミに出会う。女の子はオオカミになぞなぞを出す。オオカミはなかなか当てられない。賢い女の子とオオカミのかけあいが楽しい物語。



松岡享子 文 大社培子 文 学研

『ロバのシルベスターとまほうの小石』

ロバのシルベスターは望みがかなう魔法の小石を見つけるが、ライオンに出会い、とっさに自分が岩になるように願ってしまう。父さんと母さんは必死に探し回る。思いがけない場面とシルベスターはロバに戻り親子は再会する。驚きと喜びにあふれた物語。



ウィリアム・スタイグ 文・絵 せたていじ やく 評論社

『子どもに語る日本の昔話』

その昔、曲り傘を囲んで語られたような味わいのある昔話。地域特有の語り伝え方や方言も入り、一日の終わりや、ほっとした時間に身近な人に読み聞かせるための読みやすい作品。親子で共有できるお話を声に出して伝えたい。



稲田和子、筒井悦子 再話 偕成社

『火曜日のごちそうはヒキガエル』

ミミズクにつかまってしまったヒキガエルのウォートン。自分が誕生日の日のごちそうだと知り、逃げ出す計画を立てるが…。心やさしいヒキガエルと、ひとりぼっちのミミズクとの心の交流を描く。



ラッセル・E・エリクソン 作 佐藤涼子 訳 評論社★

『イギリスとアイルランドの昔話』

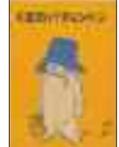
日本でも有名な「三びきの子ぶた」「ジャックと豆の木」など、イギリスの昔話2編と、ばけもの出る教会で仕立物をしてあげてぼうびをもらう「元気な仕立て屋」など、アイルランドの昔話8編が入った昔話集。語りにも向いている。



石井桃子 編・訳 福音館書店

『くまのパティントン』

南米のペルーからロンドンにやってきたくまのパティントンは、ブラウンさん一家と暮らし始める。好奇心旺盛で夫良から好意をよそわらう。行動すると必ず騒動を起こすパティントンは、一家のかげえのない一員になっていく。



マイケル・ボンド 作 松岡享子 訳 福音館書店★

『シャーロットのおくりもの』

子ぶたのウィルバーは、小さく生まれて殺されそうになったところを農場の娘のファーンに助けられたが、次は、ハムにされてしまうことに。今度は、友達のクマのシャーロットが奇跡を起こして救ってくれる。命と友情の物語。



E.B.ホワイト 作 さくまゆみこ 訳 あすなろ書房

『ととけこうよがあげた』

ととけこうよがあげた しましませつこ 偕成社

『くだもの』

くだもの 平山和子 福音館書店

『どうぶつのおかあさん』

どうぶつのおかあさん 小森厚 ぶん 数内正幸 福音館書店

『がたんごとん がたんごとん』

がたんごとん がたんごとん 安西水丸 福音館書店

『おつきさまこんばんは』

おつきさまこんばんは 林明子 福音館書店

『いないいないばあ』

いないいないばあ 松谷みよ子 ぶん 瀬川康彦 童心社

『にんじん』

にんじん せたいいじ 福音館書店

『じゃあじゃあびりびり』

じゃあじゃあびりびり まついのりこ 偕成社

『ころころころ』

ころころころ 元永定正 さく・え 福音館書店

『きんぎょがにげた』

きんぎょがにげた 五味太郎 福音館書店

『しろくまちゃんの』

しろくまちゃんの ほんとうけい 偕成社

『わがやまの』

わがやまの さく 偕成社

0 ~ 2 歳



3 ~ 5 歳



『もこもこもこ』

もこもこもこ もとながさだまさ 偕成社

『くまのコールテンくん』

くまのコールテンくん ドン・フリーマン さく まつおかきょうこ やく 偕成社

『くりとくら』

くりとくら なかかわりえ さく おおむらゆりこ 福音館書店★

『石いさなねこ』

石いさなねこ 石井桃子 さく 横内義 福音館書店

『すてきな三にんぐみ』

すてきな三にんぐみ トニー=アングラー さく いまえよしと も やく 偕成社

『おおかみと七ひきの子やぎ』

おおかみと七ひきの子やぎ グリム童話グリム [著] フェリクス・ホフマン 偕成社

『だいきとおにろく』

だいきとおにろく 松原直 再話 赤羽末吉 福音館書店

『わたしのワンピース』

わたしのワンピース にしまきかよ 偕成社

『かぼくん』

かぼくん 岸田ゆ子 作 中谷千代子 福音館書店

『おおきななぐ』

おおきななぐ ADルイス 再話 内田利子 訳 佐藤忠良 福音館書店

『三びきのやぎのからがらどん』

三びきのやぎのからがらどん マーシャ・ブラウン 文・絵 せたいいじ やく 福音館書店

『ティッチ』

ティッチ パート・ハッチンス さく・え いしいもこ やく 福音館書店

『てぶくろ』

てぶくろ エウゲーニー・M・ラチョフ 文 うちだりさこ やく 福音館書店

『ゆうびんやのくまさん』

ゆうびんやのくまさん フィービーとセルビ・ウォーグントン さく・え まささきりこ やく 福音館書店★

『もりのなか』

もりのなか マリー・ホール・エッツ ぶん・え まささきりこ やく 福音館書店★

『どろんこハリー』

どろんこハリー マーガレット・ブレイク・グラハム 文 ジーン・ジオン ぶん わたなべしほ やく 福音館書店

『こすずめのぼうけん』

こすずめのぼうけん ルース・エインワース さく いしいもこ やく 福音館書店

『かいじゅうたちのいるところ』

かいじゅうたちのいるところ モーリス・センダック さく じんくうてい およ 福音館書店

『だるまちゃんてんぐちゃん』

だるまちゃんてんぐちゃん 長谷里子 さく・え 福音館書店

『しょうぼうじどうしゃじぶた』

しょうぼうじどうしゃじぶた 渡辺茂男 さく 山本忠敬 福音館書店

『ピーターのいす』

ピーターのいす エズラ=ジャック=キーツ ぶん・え さきまはじめ やく 偕成社

『よかつたねネッドくん』

よかつたねネッドくん レミー・チャリップ さく やぎたよしこ やく 偕成社

『はじめてのおつかい』

はじめてのおつかい 筒井桃子 さく 林明子 福音館書店

『めつきらもつきらどおんどん』

めつきらもつきらどおんどん 長谷里子 さく・え 福音館書店

『ふゆめがっしょうだん』

ふゆめがっしょうだん 富成忠夫、茂木透 写真 長瀬太 文 福音館書店